

みんなで育てる福祉のこころ



1人は万人のために 万人は1人のために



第568号

発行日 毎月20日
定価一部 15円※会員の購読料は
会費の中に含む(一社)佐賀県労働者福祉協議会 佐賀市神野東四丁目7番3号 TEL 0952 (32) 1243
ホームページアドレス: <http://saga.rofuku.net/>発行人 青柳 直
編集人 江頭 一哉

賀正

2018年 あけましておめでとうございます。



旧年中は、労福協・各事業体の諸活動にご支援、ご協力を賜り厚く御礼を申し上げます。

本年も労働者福祉運動と自主福祉事業の基盤強化及び運動の継承を図るため鋭意努力してまいります。また、労福協の勤労者旅行会についてもご愛顧いただきますようお願いいたします。

皆さんと共に、「連帯・協同でつくる安心・共生の福祉社会」の実現に向かって前進していきましょう。

有田地区 会長 草場 薫	藤津・鹿島地区 会長 田中 洋一	杵島・武雄地区 会長 長平山 憲	伊万里地区 会長 塚本 典義	唐津・東松浦地区 会長 渡部 浩治	小城・多久地区 会長 稲富 修	佐賀地区 会長 鶴崎 公就	神埼地区 会長 田中 大介	鳥栖・三養基地区 会長 吉丸 厳	監事 米倉 法之	市川 智博	野中 豊明	一ノ瀬喜一郎	土田 誠也	西村 洋介	田中 啓善	理事 小副川 高朗	専務理事 高祖 和彦	専務理事 江頭 一哉	副理事長 森田 木喜	副理事長 宮島 康博	理事長 青柳 直
-----------------	---------------------	---------------------	-------------------	----------------------	--------------------	------------------	------------------	---------------------	----------	-------	-------	--------	-------	-------	-------	-----------	------------	------------	------------	------------	----------

2018年 年頭のごあいさつ



佐賀県労働者福祉協議会

理事長 青柳 直

新年明けましておめでとうございます。会員・組合員ならびにご家族の皆様におかれては、素晴らしい年を迎えられたことと思います。

昨年を振り返ると、「家族の安泰と平和な暮らし」が果たして出来た年だったでしょうか。トランプ米政権が誕生し、自国優先の経済政策をはじめ国際ルール軽視、排外的な政策が打ち出されるなど世界中に不満と不安が広がっています。国内においても、緊迫する北朝鮮のミサイル問題、そして多くの予期せぬ自然災害の発生や座間市の切断遺体という痛ましい事件、さらに貧困と格差が拡大し続けています。くわえて、電通事件やNHK事件を受け「働き方改革」も大きな社会的問題となっています。

昨年1月に、「世界人口の半分の36億分の総資産と同額の富が8人に集中」していることが国際NGO「オックスファム」が報告し、格差が「社会を分断する脅威」と警鐘を鳴らしました。国内においても、子どもの貧困問題がクローズアップされています。最新(2015年)の調査では13.9%と回復しているが、子どもの7人に1人は貧困状態、ひとり親世帯に限ると50.8%と深刻な状況にあるとされています。今後、労福協としてどうい

った支援活動が取り組めるのか検討を始めたと思います。

また、昨年も九州をはじめ日本列島は多くの自然災害に見舞われました。特に、7月の九州北部豪雨では福岡県朝倉・大分県日田を中心に甚大な被害をもたらし、台風も相次いで日本列島を横断するなど災害が多い1年となりました。我々は、自然災害はいつでもどこでも起こるものだと気づかされ、一人ひとりが災害時の備えの大事さを学びましたが、一方で自然の驚異にはなす術がありません。被災地の復旧・復興には相当な時間と労力がかかると思います。引き続き、被災地に寄り添いながら支援活動に取り組みたいと思います。

さて、これから超少子高齢化社会を迎え、労働力不足が深刻化しており人財確保が喫緊の課題となっています。そして、今社会に必要なのは人と人とが助けあう仕組み「共助」だと思っています。まさに、労福協運動そのものであります。今年は、明治維新から150年を迎えます。労福協として、連合をはじめ関係団体が手を携えて「社会を変え新しい社会をつくる」、その時期にきていると思っています。

これからもそうですが、「家族の安泰と平和な暮らし」について引き続き、その充実を求めて事業を進めて行きます。さらに、人と人とのつながり・絆が大切にされる社会に向けて取り組みを推進していくことが、明日への希望に繋がると信じています。

今年も労福協事業の取り組みに対し、これまで同様のご理解とご協力をお願いし、年頭の挨拶と致します。今年もどうぞよろしくお願いいたします。

2018年 年頭挨拶



労働者福祉中央協議会

会長 神津 里季生

新年明けましておめでとうございます。

昨年は中央労福協の諸活動、とりわけ奨学金問題において多大なご協力をいただき、ありがとうございました。お陰様で、給付型奨学金制度が創設されるなど、大きな前進がありました。今後とも、運動をさらに大きくして、給付型奨学金や無利子奨学金の拡充をはじめ、既存の返済者の負担軽減や救済策の拡充、学費を含めた教育費負担の軽減につなげていきましょう。

さて、内外ともに不透明さが増し、世界的に格差と貧困が拡大する中、一部の層だけが富を享受し社会の分断を推し進めるのか、それとも、国連の「持続可能な開発目標(SDGs)」が提唱するように「誰ひとり取り残さない」包摂的な社会をめざすのか、私たちは大きな岐路に立っています。

日本においても、中間層が分解され二極化が進

展し、あらゆる世代・層で格差・貧困が拡大し、孤立が広がっています。このため、労働時間の短縮や最賃の引き上げ、雇用の安定、社会保障の充実、所得再分配機能の強化を進めるとともに、生活困窮者自立支援制度など社会的セーフティネットを強化していくことが必要です。協同組合や労働組合も、働く場や居場所づくり、「助け合い・支え合い」の地域づくりにおいて役割を発揮していくことが求められています。

2016年に「協同組合の思想と実践」がユネスコの無形文化遺産として登録されるなど、協同組合の役割への世界的な評価が高まっています。こうした期待に応えて、協同組合の社会的価値と力量を高め、労働組合と協同組合が「ともに運動する主体」としての関係を強化しつつ、共助の輪を地域に広げていきましょう!

中央労福協は「連帯・協同でつくる安心・共生の福祉社会」(2020年ビジョン)の実現をめざして活動を展開するとともに、2019年の設立70周年に向けて、次なる時代を切り拓くための新たなビジョンづくりにも取り組んでまいります。

引き続き皆さまのご支援をお願い申し上げ、年頭のご挨拶といたします。

2018年 年頭のごあいさつ



九州労働金庫佐賀県本部

本部長代行 原口 郁哉

お健やかに新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。昨年は、会員・組合員のみなさまの格別のお引き立てを頂戴し、誠にありがとうございました。おかげをもちまして、預金・融資とも目標を上回る業績で年を越すことができました。

昨年は、私たちのトップである相川本部長の病氣入院、急逝という事態となり、痛惜に堪えないところでした。あらためてみなさまに、生前のご厚誼に感謝申し上げます。その遺志に報いるためにも「きつと・もつと・ずっと、お客様のお役に立てるろうきん」であり続けることをめざしてまいりたいと決意しております。

さて、昨今銀行系のカードローンの伸長が著しく、それに伴って減少傾向にあった「自己破産」がまた増加傾向に転

じており、金融庁としても関心を持って調査等を進めているところがございます。クレサラ金融のときほど高利ではなくとも返済する側からすればかなりの負担となっており、しかも「総量規制」の対象外として過度の利用もあっております。手軽さの陰にある落とし穴が生活破壊につながっていくおそれもあります。はたらく仲間のみなさんから、そうした不幸せを出さないこともろうきんの使命としてアピールしてまいりたいと思います。

今年は「戌年」です。犬は猫と並んで最も身近なペットです。近年、犬の飼育頭数がだんだん減ってきており、ほぼ猫と並んでいるのだそうです。どちらかというと犬は人に良くなつき、猫には孤独を愛するようなイメージがあります。「犬は三日の恩を三年忘れず、猫は三年の恩を三日で忘れる」とも言われているようです。猫派にはちょっと受け入れがたい話かもしれません。

いずれにしても、私たちみなさんの身近な存在となり、犬や猫のように心を癒すことはできないかもしれませんが、少し「お財布」を癒せるような存在になればと頑張っています。今年もよろしくお願い申し上げます。

2018年 年頭のごあいさつ



全労済佐賀推進本部

本部長 宮島 康博

新年明けましておめでとうございます。

ここ数年、毎年のように地震あるいは台風等による自然災害が多発しており、被災された方々の避難生活や亡くなられた方のことを思うと、胸が痛むばかりであります。

大規模な自然災害による被災地の疲弊は、目を覆うばかりです。地域経済の活気を一日も早く取り戻すことは急務ですが、何よりも望まれるのは、被災者の皆様の一日も早い生活再建であります。このことなくては、地域経済も成り立たないことは明白であります。

2017年においても、7月の九州北部豪雨をはじめとして、9月には台風18号による全国的な被災の発生、続く台風21・22号での甚大な被災発生が生々しい記憶として残っています。全労済では、現場調査を迅速に進めるために被

災件数が多い地域には、職員を動員して調査を急いでいます。迅速に共済金等をお支払いすることこそが、いざと言うときの全労済の使命であることの実践であります。日々の努力を決して手を抜くことはありませんが、それでも願うのは、今年こそは自然災害に無縁であって欲しいことであります。

さて、昨年9月29日には全労済は創立60周年を迎えました。小さな力で発足した労働者共済でありましたが、60年の年月を経過することで、今日では大きな災害にもきちんと対処できるだけの組織に育つことができました。このことは、ひとえに労働者共済を「助け合い運動」の原点として、物心両面にわたる組合員の支えがあればこそです。

今年3月23日には、佐賀労済創立55周年の節目を迎えます。これまでのご支援に感謝するとともに、次世代にも全労済を育てていただけるように、キャンペーンとイベントを計画しています。多くの方の賛同を得ながら、55周年記念事業を成功させたいと意気込んでいますので、よろしくお願いします。具体的には、これからPRに努めていきます。

最後になりましたが、組合員と家族の皆様のご多幸をお祈りいたします。

2018年 年頭のごあいさつ



佐賀県生活協同組合連合会

会長 喜多 裕彦

新年明けましておめでとうございます。

今回も残念なことに、昨年の北部九州豪雨によるお見舞いを申し上げざるを得ない新年を迎えました。県内の生協でも様々な被災地支援を継続していますが、改めて被災者の皆さまに、心からお見舞い申し上げます。

昨年はまた、予期せぬ総選挙が突然行われました。「森友・加計学園問題」での政権への厳しい批判があったにも関わらず、野党の直前の混乱、分裂も影響して、政権与党が多数を占める結果となっています。

引き続き貧困と格差による厳しい生活、負担増と給付

削減の医療・福祉制度改悪が進行し、「安保法制」や「共謀罪」の強行、地元佐賀でもオスプレイの佐賀空港配備など、憲法を改悪し、日本を戦争ができる国にするような政治が進行しています。根底には行き過ぎた市場原理主義・グローバル化による「奪い合う社会」が、相次ぐ大手企業の不正なども誘発し、様々な解決困難な問題を引き起こしています。

そのような中で、協同組合の「分かち合う」思想と実践が、ユネスコの無形文化遺産に登録されました。また、核兵器廃絶条約の成立に貢献した「ICAN」がノーベル平和賞を受賞し、被爆者も授賞式で演説をする姿が報じられました。「平和とよりよき生活」を求めて事業と運動を進めてきた私たちにとって、うれしいニュースです。厳しい時代だからこそ、知恵と力を集め、助け合うことのすばらしさを広げる事業と運動を、昨年以上に笑顔で元気よく進めましょう。

「言いたい劇場」

小菅りや子



下の絵は上の絵をベースに考えて「7つの間違い」があります。それはどこでしょう。次の①～⑧のうち、間違いの全ての番号をご記入ください。

①暖炉が囲炉裏(いろり)に ②札を読んでいる犬の袴が白袴に ③寝ている犬のしっぽの向きがかわっている ④かるたが1枚だけ向きが違ふ ⑤窓の枠 ⑥鏡餅の数 ⑦左端の犬が服を腕まくりしている ⑧窓の左側のカレンダー
ただし、印刷上の汚れやかすれ、スクリーントーンの濃淡は間違いとはしません。



こたえがわかった方は
官製ハガキに「こたえ」と
住所(〒)氏名・年令・自宅
の電話番号 勤務先を明記
のうえ左記のところに
お送りください。お年玉として
「宿泊・食事引換券」を一名
様、「図書券」を十名様に進
呈いたします。(なお、切
日は一月二十六日とし、正
解者多数の場合は抽選の
うえ決めさせていただきます
ます。)

▽〒840-0804
佐賀市神野東
四丁目七一三
労働者旅行会
▽当選者発表は
二月号紙上
▽協定旅館
【佐賀】千代田館
【川上】龍登園
【唐津】シーサイドホテル
【嬉野】華翠苑・和楽園
【武雄】武雄センチュリー
ホテル・春慶屋

旅行会

お年玉クイズ

7つのまちがい探し

『戌(犬)』のつく諺…

犬一代に狸一匹

【意味】 いぬいちだいにたぬきいっぴき

【意味】 よいチャンスにはなかなか出会えない
たとえ。犬の一生に狸のような大きな獲物をするの
は一度くらいだ。

犬が西向きゃ尾は東

【意味】 いぬがにしむきゃおはひがし

【意味】 わかりきったこと、当たり前のこととい
う場合のたとえ。

犬は三日飼えば三年恩を忘れぬ

【意味】 いぬはみっかかえはさんねんおんをわすれぬ

【意味】 犬は三日飼っただけでも、三年間その恩
を忘れない。まして人は恩知らずであってはいけ
ない、という意味。

犬骨折って鷹の餌食

【意味】 いぬほねおってたかのえき

【意味】 犬が苦労して追い出した獲物を鷹に取
られる。苦労して手に入れたものを他人に奪
われてしまったこと。

犬も朋輩鷹も朋輩

【意味】 いぬもほうばいたかもほうばい

【意味】 同じ主人に仕える以上、身分に違いは
あっても、仲良くしていく義務があるということ。
会社の同僚などについていう語。

犬兎の争い

【意味】 けんとのあらそい

【意味】 両者が争って弱り、第三者に利益をとら
れること。犬が兎を追いかけて、山を上ったりして
いるうちにどちらも疲れて死んだのを、農夫が自分
のものにしたという寓話から。

犬馬の心

【意味】 けんばのこころ

【意味】 主君や親のために尽くす忠誠心という。

2018



【いぬ 戌】 十二支の
第十一番目。年月日に用
いるほか、方角では西
北西。時刻では午後八
時、またその前後二時
間の呼び名とする。